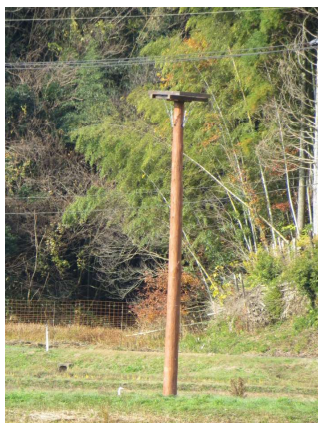




先週、日本の無人探査機「はやぶさ2」が投下したカプセルの火球をライブやニュースで見られた人も多いのではないのでしょうか。カプセルが暗い空に描いた光跡はまさに感動的でした。そのカプセルには地球から遠く離れた小惑星リュウグウの石や砂が入っているとみられており、オーストラリアの砂漠で無事回収されました。今回の偉業は、日本の探査技術の高さを改めて世界に知らしめたことでしょうか。今回のプロジェクトには本県出身の研究者2人も関わっており、地方で宇宙開発を夢見る子どもたちをも勇気づけたと思います。JAXAの計画責任者の方は、カプセル回収を「玉手箱が舞い降りた」と表現されていましたが、箱の中から画期的な研究成果が得られることを期待したいものです。宇宙に残る「はやぶさ2」が次に向かうのは100億km先にある、直径わずか30mほどの小惑星。11年後の到着を目指していますが、針の穴に糸を通すような緻密な制御技術が求められるそうです。

◇◇◇◇◇ 人工巣塔がお目見え ◇◇◇◇◇



本校の多目的ホールから西側を眺めると、県のコウノトリ飼育ケージ（第2ケージ）のそばに新しい巣塔を見ることができます。この巣塔の高さは8mで、ひのき製の支柱の先端には八角形の巣台があります。くちばしの折れたコウノトリ「コウちゃん」が本地区に飛来して50年を迎えるのにあわせて、先月の28日に「水辺と生き物を守る会」（水辺の会）が設置したとのこと。今年を入れて3年連続で第2ケージの上にコウノトリのペアが巣を作っていますが、ヒナの誕生にはいたりませんでした。この新しい巣塔が定着の場となり、ヒナの誕生につながることを期待したいと思います。コウノトリがやってくる日がとても楽しみです。

いのちの教育「救命入門コース」

7日（月）、南越消防組合中消防署から2名の方に来ていただき、5年生を対象に「いのちの教育」の授業をしていただきました。日本では年間7万人の方が心臓突然死で亡くなっています。この数が交通事故で亡くなるよりはるかに大きいことから、心停止がいつ、どこで起こるか分からないといえます。もしそういう場面に出くわしたとき、救命には素早い119番通報と心肺蘇生、AEDの使用が大切になります。目の前の命が助かるかどうかは、周りにいる自分たちの行動にかかっているのです。5年生の子たちは今日の心肺蘇生やAEDの学習を通して、目の前で誰かが突然倒れたとき、迷わずに落ち着いて素早く対応することの大切さを学びとってくれたはずです。自分にとっても誰かにとっても命はかけがえのない大切なものであり、いざというときには「自分が命を助ける」という強い気持ちをもってもらいたいと思います。

